

タイトル	なぜ今も大須商店街は生き残っているのか —— 古着文化の事例から考察 ——		
所属	中京大学現代社会学部 岡部ゼミ	氏名	赤川 萌


【問題設定】

電気街？オタク街？ファッションの街？食べ歩き？

人それぞれに違うイメージを持つ大須商店街
私は古着といえば大須！
というイメージを持っていた

↓

大須商店街で古着屋が発展した事例から
未だ賑わいを見せる大須商店街の特徴を明らかにする



【調査方法】

①文献調査

- 古着の歴史
- 大須商店街の歴史

②フィールド調査

2020年1月12日(日) 大須商店街を散策
2020年1月27日(月) 大須商店街にある古着屋を訪問



【調査内容】

①古着の定義化

日本の古着文化は室町時代から始まったとされているが
1970年代初め頃からのファッション古着系の古着に着目する。
東京都原宿の洋服店がアメリカの中古ジーンズを輸入したことが始まりとされている。
そこから古着は若者の間で評判となり大流行していった。

↑ 「ファッション系中心の時代」
1970年代初め

↓ 「新品不足を補う需要系中心の時代」

②古着と大須商店街の歴史

1612年～
名古屋城完成とともに岐阜鳥羽の大須観音が移転してきたことから「大須」と呼ばれる。そして参拝者のために商売が始まり、たくさんの人のニーズに合った店が出来上がっていった。

1935年～1965年頃
空襲や名古屋駅前栄地区に地下街やおしゃれなビルなどが原因で一時衰退した

1975年～
アメ横センターのオープンにより若者が増え電気街を形成、さらに**若者向けの古着衣料や雑貨などの店の進出**で老若男女が訪れるごった煮の大須商店街へ

大須商店街の現在

SNSで流行ったもの売る店が増えた
EX. タピオカ、ロールアイス




【考察・まとめ】

① いろんな側面を持った商店街であること
② 若者のニーズに応え、新しいものを取り入れ続けること

【今後の課題】

もう少し古着文化に着目した論文にしたい

- ◎古着屋を訪れ、インタビュー調査をする
 - ・ どうして大須で商売をしようと思ったのか
 - ・ 古着で商売をしようと思ったのはなぜか
 - ・ 大須商店街どういう街か など
- ◎古着はどのように仕入れているのか
 - ・ 主に海外から輸入している古着の仕入れ




この2つの特徴が未だ大須商店街に賑わいを見せている理由だと考える。

【参考文献】

名古屋タイムズ・アーカイブス委員会 『名タイ昭和文庫② 大須レトロ』 樹林舎
朝岡康一 『古着 モノとヒトの文化史』 財団法人法政大学出版局
バウンド 『はじめての古着やオープンBOOK』 株式会社技術評論局